

浦幌町立博物館だより

平成30(2018)年1月号

平成29(2017)年12月22日発行

編集・発行：浦幌町立博物館 〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16-1 / 電話：015-576-2009 / FAX：015-576-2452

E-mail: museum@urahoro.jp

自慢の化石を持って集まろう！ 上浦幌公民館で「化石の勉強会」を開催

帯広市在住の井上清和さんは、仕事のかたわら、永年にわたって浦幌地域で貝化石の調査を続けています。ウラホロモミジソデボラの発見では、上越教育大学の研究グループに協力し、学名には井上さんの名前が付けられています。

その井上さんを講師に招き、1月9日(火)の午後、「化石の勉強会」を開催します。会場は上浦幌公民館です。

化石の宝庫「上浦幌」

上浦幌地区は、浦幌でも化石がたくさん採集できることで知られています。近年、新種の発見が続いている貝化石も上浦幌の活平地区が産地ですし、アンモナイトがみ



井上さんの名前のついた貝化石
ウラホロモミジソデボラ
=学名:カンギリオプテライノウエイ
写真は上越教育大学提供)

つかったのも、上浦幌の茂川流布川の K/Pg 境界付近です。

また、上浦幌には、化石好きな方がたくさん住んでいます。農家さんが多いので、以前から農作業

に比較的余裕のできる冬に、化石の講座を開催して欲しいという声がありました。

化石を持ち寄って化石談義

当日は、井上さんから近年の貝化石研究のことなどについて講演いただくほか、参加者の皆さんにもぜひ自慢の化石をお持ちいただき、披露してもらおうと思います。互いの化石を見せ合いながら、化石談義で盛り上がる場にしましょう。

あ、もちろん自分の化石を持っていない人でも参加できますよ。お気軽にご参加下さい。

(浦幌町立博物館 学芸員 持田 誠)

静かに役目を終える旧浦幌町郷土博物館



搬出のため、およそ半世紀ぶりに外光を浴びるヒグマの剥製や、空になった展示ケース。

平成29(2017)年12月16日、東山の丘の上に建つ旧浦幌町郷土博物館は、48年間にわたり結んできた北海道電力との契約を打ち切り、電源を落しました。この博物館は昭和44(1969)年6月1日、開町70年を記念して開館しました。現在の浦幌町立博物館の前身で、十勝では上士幌町の旧ひがし大雪博物館と並び、もっとも古い博物館です。

平成11(1999)年にいまの博物館ができると、その後は収蔵庫として陰ながら博物館活動を支えてきました。しかし、老朽化による痛みが激しく、このたび収蔵資料を旧吉野小学校を活用した新収蔵庫へ移動しました。

建物はまだしばらく残ります。解体される前にいちど、最後の見学会を開催したいと考えています。